



☆☆今月のテーマ☆☆

- ・秋の紅葉といった自然の移り変わりに興味や関心を持つ
- ・戸外へ出て体を動かして大いに遊ぶ！

～今月の園内学習～

- ・足し算…2の段
- ・掛け算…2の段
- ・歴史カード…徳川家光ほか
- ・国旗カード…メキシコほか
- ・絵画カード…「落ち穂拾い」ほか
- ・地理カード…四国地方
- ・声に出して読みたい日本語…
- 「山椒大夫」森鷗外ほか

♪ 今月の唄～♪

- ◇ 虫の声
- ◆ ドロップスのうた

～保育のポイント～

「のびのび教育」で見落としがちな点について
 ～「右脳」子育て 七田 眞著～
 こどもを比較し、他を蹴落とすことを是とする戦後の日本教育の反動からなのか、今は「学校に入るまでは教えてはいけない」や「早くから知的なことを教えると性格が歪み、自己中心的な子に育つ」といった見方が根強いようです。では、頭のいい子は誰もが性格が悪く、自己中心的でしょうか。逆はどうでしょうか。そうでないことは現実の世界を見れば、一目瞭然です。とは言え、教育は時期がくるのを待つとするものという考えがあり、その時期になればこどもは自然に物事に興味を持って覚えるようになる、という考えがあるのも事実です。その反証として、21年度の文科省が小1や小2の不登校は前年比35%増えたという調査報告があるように、(未就学児期に)ただ遊ばせるだけで就学期に臨むと教育環境への不適応から学校に馴染めないという悲しいスタートを切らざるを得ない場面遭遇しないとも限りません。ですから、「時期がくるのを待つ」というのは避けたい考え方と言えますので未就学期に取り組むべきは知的な能力の発達と同時に「心」の育みも取り入れ、車の両輪のように取り組む必要があります。最近、「キレる子」という言葉を耳にしますが、その特徴は(1)気の向くまま好き放題で感情抑制が出来ない、(2)自分の行動を反省し責任を取ろうとしない、(3)行動を抑制されると怒り、抑制する人を憎む、や(4)弱い人にストレスのはけ口を求め、となっています。これらを未就学児期にバランスよく取り組むことで、のびのびと過ごしていける就学期のスタートに繋げることが可能だと思いますのでご紹介した次第です。

～行事予定～

- ・リズム教室…3日(幼児)
- 30日(乳児)
- ・書道教室…5日・12日・19日・26日
- ・体操教室…11日(0・1歳児/3歳児)
- 13日(2歳児/4・5歳児)
- ・遠足(安佐動物公園)…14日
- ・英語教室…17日(幼児)
- 19日(乳児)
- ・身体測定…19日(幼児)
- 20日(乳児)
- ・誕生日会…25日
- ・避難訓練…27日
- ・ハロウィン会…31日



「ひよこ」と「りす」組だより



先月、「天高く馬肥ゆる秋」の気候を期待したものの、残暑が色濃く残る中で思うような外遊びができなかったのは残念な限りです。今年度も折り返しで春先の不安定さからこやかにお家感覚で過ごせるのは何よりとなっています。外見だけでなく、心の育ちも急ピッチで進んでいるようで他の月齢児の動きに刺激を受け、自分でやろうとする姿が見えはじめました。とは言え、まだまだ途上の段階ですから傍ですぐに手を貸すのではなく、辛抱強く見守り、一人ひとりの状況を見極めて必要な声かけや関わりで自立を促していきたいと思ひます。毎朝、音楽に合わせて踊るので、みんなは条件反射のように違和感なく、朝の体操を楽しむ姿が見られます。先月の暑さが本来の気候に衣替えるようなので今月は外遊びを存分に取り入れて秋を満喫していきたいと思ひます。



「きりん」と「こあら」組だより



先月、長々と居座ろうとする不快指数たっぷりの日中の残暑を避け、朝早めに外出する暑さ対策で外遊びを水遊びの代わりにしてきました。しかし、記録的な暑さの今夏の流れはどうしようもなく、短時間でも汗びっしょりと大変ながらも外遊びをし、体を暑さに慣らしながらの外遊びとなりました。これからはそんなハードルも下がってくるでしょうから、自然とのふれあいを楽しんでいければと思います。自我もでき、他の子との絆が深まろうとしている「きりん組」の密かなブームとなっているのがトイレに行く時の電車ごっこ(正確には新幹線ごっこ)で仲良く列になって移動する、微笑ましい光景となっています。一方、仲良くしよしの「こあら組」のかくれんぼでは「もういいかい?」や「もいよいよ!」という言葉のキャッチボールもさることながら、隠れたつもりが尻隠さずではありませんが、頭が出ていたりご愛嬌の遊びでほのぼのとした遊びが人気となっています。これから外遊びが本格化すると思ひますが、感染症対策としての手洗いやうがいもしっかりしていきたいと思ひます。



「ひつじ」と「ぞう」組だより



まだまだ手放して存分に外遊びができる気候となってはいませんが、みんなは汗ばみながらも公園のアスレチック遊具を物怖じせずに挑戦したり、急角度のすべり台をものともせず一気に急降下したりして楽しんでいます。これからはようやく秋への衣替えが進むようですから暑さから涼しさといった気温変化に身体をならして元気に秋を満喫していきたいと思ひます。ひつじ組は1日のタイムテーブルが身についているようで「次、何する」を判断する行動が見られるようになってきたのは素晴らしいと思ひます。お友だち同士の関係性もお互いに声かけしたり、教え合う姿が見られるのも頼もしい限りです。就学期まで残り半年となるぞう組は時間観念を養う意味で時計を見て「長い針が〇になったら、～するよ」などと行動できるように実践しています。また、お友だちとの間で一定のルールを設け、それを守りながら遊ぶゲームなども人気です。これからは就学期の生活リズムへの切り替えでお昼寝なしの代わりにワークシートなどを取り組む生活となりますのでよろしくお願ひします。



給食室だより

～「実りの秋」には旬な食材がたくさん!～

今夏は記録的な暑さから「実りの秋」の行方が少々、心配ですが…。昨今は栽培技術の進化で季節に関係なく野菜が食べられるようになったものの、”それぞれ適した土地や気候などの環境の下に育てられた「旬」の野菜や果物は季節外れのものとは比べて味や風味も格段に違い、そのままでも美味しく食べられる”といったことから重宝がられます。また昔から“季節に伴い、体も変化すると考えられ、自然と体を調和させるために、その土地で採れる「旬」の食材を上手に取り入れるのが良く、それらは、手頃な価格で栄養価も旨みも高く、心身の健康を保つためにも重要”との位置づけとなっています。それらの特徴は(1)味が濃く美味しい、(2)栄養価が高い、(3)鮮度がよくて経済的である、そして(4)季節にあった身体的機能を補強する(免疫カアップ)などが挙げられます。これからの季節の代表的な野菜には食物繊維やカリウムのさつまいもがダイエット効果、βカロチンやビタミンCのかぼちゃが免疫カアップ、植物繊維やポリフェールのごぼうが疲労回復、ビタミンB1や鉄分のほうれん草が貧血予防などの効果がそれぞれあります。他にも腸内環境を整えてくれるきのこ類など実りの秋の野菜で元気に過ごしていこうにしましょう。